

編集後記にかえて

水島 裕雅

今年は何度か花見の機会を得た。岩国の錦帯橋の河沿いの桜、東広島
の鏡山公園の桜、広島市の江波山の新種ヒロシマエバヤマザクラ、そして
五日市の市民農園の畑を提供してくれた農家のソメイヨシノの古木。誘
い誘われて出かけて見た桜はそれぞれ美しく咲き匂っていた。そして
天気も良かったので、沢山の人が花と酒に酔っていた。花は桜ばかりで
はないはずだが、なぜ日本では桜の花をかくも賞美するのであろうか。

たしかに、日本の諺には「花は桜木、人は武士」とか「世の中は三日
見ぬ間の桜かな」などのよく知られたものがある、それらの印象が強
く、パッと咲いてパッと散る、散り際の良さが桜の美しさのように言わ
れて来た。しかし、すこし桜について調べてみると、必ずしも昔から日
本人はそう見て来たばかりではなさそうである。

すでに『日本書紀』のなかで桜の花は歌われているのだが、ここでは
允恭天皇が衣通姫の美しさを桜の花の美しさに喩え、「花妙し 桜の愛
で こと愛でば 早くは愛でず 我が愛つる子ら」と、その美しさを女
性の美しさと重ねて賞賛している。

しかし、もっと花見の古い意味を伝えているのは、各地の民謡や盆踊
り歌として伝わっている次のような歌ならびに類歌ではなからうか。

「弥彦山から分水見れば 今は盛りの桜花」（新潟県 地藏堂おけき）
土橋寛著『古代歌謡の世界』によれば、こうした歌は古代の花見歌な
いし国見歌に通じるものであって、花を誉め、国を誉めることで、神の
祝福を得ようとした古代人の心が反映しているものであるという。

また、『万葉集』には、桜の花の生命力や魔除けの力を信じたことか
らくると思われる次のような歌もある。「をとめらの 挿頭のために
みやびをの かづらのためと 敷きませる 国のはたてに 咲きにける
桜の花の にほひもあなに」（巻第八）

こうしてみると、時代によって花見の意味も違っているといえよう。
また「俺とお前は同期の桜」の歌詞のように、時代に合わせて作られた

イメージもある。美意識というものも、歴史を知らないで、だれかに勝
手に操作されてしまうものなかもしれぬ。四月廿三日記。

(みずしま ひろまさ 広島大学)

本号掲載論文中、斎藤、永田、シャピロの三氏の論文は、当会例会に
おける口頭発表に基づくものである。水島の発表は海外帰国報告であっ
たので今回新たに執筆した。フォーゲル氏の論文は芸術学会主催の講演
会で発表されたものの翻訳である。昨年の大会は日韓学生美学研究会と
合同で行われ、口頭発表はそちらの報告書に掲載された。

編集委員

- 青木 孝夫・安西 信一・大井 健地
- 大橋 啓一・香川不苦三・金田 晋
- 倉橋 清方・園府寺 司・斎藤 稔
- 幣原 映智・高木 茂登・出原 均
- 永田雄次郎・八田 典子・松本 真
- 水島 裕雅・水田 一征

藝術研究

第八号

頒価一五〇〇円

平成七年七月十五日 印刷
平成七年七月十六日 発行

編集 広島芸術学会年報編集委員会

発行 広島 芸術 学会

〒724 広島市鏡山一―七七一
広島大学総合科学部比較文化研究室気付
TEL 〇八二四―二四一六三三五
or 六三三〇

印刷 柏村印刷株式会社
〒730 広島市中区国泰寺町二―五二七
TEL 〇八二二―四六―八〇〇〇